

### Ⅲ 基準ごとの自己評価

#### 基準 1 高等専門学校の目的

##### (1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 高等専門学校の目的が、それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校の目的は『教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること』である(資料1-1-①-1)。

その目的を達成するために、本校は創立以来、『自学自習』、『理魂工才』を校訓としている。ここに本校の特色が現れており、「自らよく学びよく思考しながら、目先のことだけにとらわれずにその基本となる原理を考えると同時に、実践を通して実際の工学のセンスも身につける」ことを目指している。(資料1-1-①-2)。

また、校訓を踏まえて、基本教育目標4つを以下のように掲げている(資料1-1-①-3)、

- 1) 豊かな人間性と広い視野を持ち、社会人としての倫理を身につける
- 2) あらゆる学習を通じて思考力を鍛え、創造性に富んだ技術者になる
- 3) 専門分野の基礎を良く理解し、実際の問題に応用できる能力を培う
- 4) 意思伝達及び相互理解のため、十分なコミュニケーション力を養う

この基本教育目標は、学生便覧、学校総覧、学生募集要項、本校ウェブページ等に明示されており、本目標に向けた教育が実践されている(資料1-1-①-4～6)。そして、基本教育目標に基づいて養成する技術者像を「多様な価値観と広い視野を持ち、人間性と創造性に富み、基礎工学及び専門知識・技術を有機的に統合したものづくりやシステムづくりに強い実践的技術者」と定めている(資料1-1-①-7)。

本校には、準学士課程として機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科、物質工学科の4つの学科が、専攻科課程として、機械電気システム工学専攻、物質工学専攻の2つの専攻が置かれている(資料1-1-①-8～9)。準学士課程の各学科の目的は学則第7条の2に、以下のように定められている(資料1-1-①-10)。

- 1) 機械工学科 : 産業界のあらゆる分野で活躍できる教養豊かな機械技術者を育成することを目的とする
- 2) 電気電子工学科 : 産業界で活躍できる創造性豊かな実践的電気電子技術者を育成することを目的とする
- 3) 制御情報工学科 : 情報並びに電子・機械制御技術を統合した広い技術分野に携わる実践的技術者を育成することを目的とする
- 4) 物質工学科 : 物質や生物の知識を基礎として、環境問題や新しい科学技術に対応できる技術者を育成することを目的とする

加えて、専攻科課程の目的を学則第38条に、『高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工学に関する高度な専門知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成すること』と定め(資料1-1-①-11)、機械電気システム工学専攻及び物質工学専攻

に対しても個別に養成する人材像を定めている（資料 1-1-①-12）。

また、準学士課程，及び専攻科課程に対して，具体的な学習・教育目標を掲げており，シラバスに明示している（資料 1-1-①-13~14）。

資料 1-1-①-1

### 本校の目的

鶴岡工業高等専門学校学則（抜粋）

#### 鶴岡工業高等専門学校学則

制 定 昭和 38 年 4 月 1 日  
最終改正 平成 24 年 2 月 22 日

#### 第 1 章 本校の目的

（目的）

第 1 条 本校は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（出典：規程集）

資料 1-1-①-2

### 校訓

校 訓

自 学 自 習  
理 魂 工 才

（出典：平成 25 年度学生便覧，p. 1）

資料 1 - 1 - ① - 3

基本教育目標

## 基本教育目標

1. 豊かな人間性と広い視野を持ち、社会人としての倫理を身につける
2. あらゆる学習を通じて思考力を鍛え、創造力に富んだ技術者になる
3. 専門分野の基礎を良く理解し、実際の問題に応用できる能力を培う
4. 意思伝達及び相互理解のため、十分なコミュニケーション力を養う

(出典：平成25年度学生便覧, p. 1)

資料 1 - 1 - ① - 4

基本教育目標

## 3. 教育目標と入学者受入方針

### 基本教育目標

1. 豊かな人間性と広い視野を持ち、社会人としての倫理を身につける
2. あらゆる学習を通じて思考力を鍛え、創造力に富んだ技術者になる
3. 専門分野の基礎を良く理解し、実際の問題に応用できる能力を培う
4. 意思伝達及び相互理解のため、十分なコミュニケーション力を養う

(出典：平成 25 年度学校総覧, p. 2)

資料 1 - 1 - ① - 5

基本教育目標

## 基本教育目標

- 1 豊かな人間性と広い視野を持ち、社会人としての倫理を身につける
- 2 あらゆる学習を通じて思考力を鍛え、創造力に富んだ技術者になる
- 3 専門分野の基礎を良く理解し、実際の問題に応用できる能力を培う
- 4 意思伝達及び相互理解のため、十分なコミュニケーション力を養う

(出典：平成 25 年度学生募集要項 p.13)

## 基本教育目標

**What is 高専？****高専とは**

高等専門学校は、中学校卒業後の学生を対象に5年間の一貫した技術教育によって、専門技術者の育成に当たっている高等教育機関です。

さらに、卒業後2年間専攻科で学習することによって大学評価・学位授与機構から学士の学位が与えられることにより、大学卒業者と同等の資格を得ることができます。

鶴岡高専では高い実践的創造力と強い社会適応能力、そして豊かな人間性をも兼ね備えた科学技術者あるいは科学研究者を養成します。そのため、科学・工学・技術の基礎から応用、実用英語、文化・教養、保健・体育など、幅広く調和のとれたカリキュラムを用意しています。

さらに、文化部や運動部の課外活動を重視し、学寮における人間教育にも力を入れています。

「就職もよし、進学もよし」が本校学生の合い言葉です。

**基本教育目標**

1. 豊かな人間性と広い視野を持ち、社会人としての倫理を身につける
2. あらゆる学習を通じて思考力を鍛え、創造性に富んだ技術者になる
3. 専門分野の基礎を良く理解し、実際の問題に応用できる能力を培う
4. 意思伝達及び相互理解のため、十分なコミュニケーション力を養う

(出典：本校ウェブページ)

## 養成する人材像

**養成する人材像**

多様な価値観と広い視野を持ち、人間性と創造性に富み、基礎工学及び専門知識・技術を有機的に統合したものづくりやシステムづくりに強い実践的技術者。

(出典：平成 25 年度学生便覧, p. 1)

資料 1-1-①-8

準学士課程入学定員

鶴岡工業高等専門学校学則（抜粋）

### 第 3 章 学科、学級数、入学定員及び教職員組織

（学科、学級数及び入学定員）

第 7 条 学科、学級数及び入学定員は、次のとおりとする。

学 科	学級数	入学定員
機 械 工 学 科	1	40 人
電 気 電 子 工 学 科	1	40 人
制 御 情 報 工 学 科	1	40 人
物 質 工 学 科	1	40 人

（出典：規程集）

資料 1-1-①-9

専攻科課程入学定員

鶴岡工業高等専門学校学則（抜粋）

第 39 条 専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専 攻	入学定員
機 械 電 気 シ ス テ ム 工 学 専 攻	12 人
物 質 工 学 専 攻	4 人

（出典：規程集）

資料 1 - 1 - ① - 10

準学士課程各学科の目的

鶴岡工業高等専門学校学則（抜粋）

第 7 条の 2 学科の人材養成に関する目的その他の教育上の目的は、次のとおりとする。

- 一 機械工学科 産業界のあらゆる分野で活躍できる教養豊かな機械技術者を育成することを目的とする。
- 二 電気電子工学科 産業界で活躍できる創造性豊かな実践的電気電子技術者を育成することを目的とする。
- 三 制御情報工学科 情報並びに電子・機械制御技術を統合した広い技術分野に携わる実践的技術者を育成することを目的とする。
- 四 物質工学科 物質や生物の知識を基礎として、環境問題や新しい科学技術に対応できる技術者を育成することを目的とする。

（出典：規程集）

資料 1 - 1 - ① - 11

専攻科課程の目的

鶴岡工業高等専門学校学則（抜粋）

（目的）

第 3 8 条 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工学に関する高度な専門知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

（出典：規程集）

## 専攻科課程各専攻の養成する人材像

**機械電気システム工学専攻** Department of Mechanical and Electrical Engineering

機械工学、電気工学及び制御情報工学の高度な専門知識を習得し、これらを応用したシステムの設計や開発技術能力を持った実践的開発型技術者を育成します。機械や材料、電気、エネルギー、計測・制御、情報等の分野についての教育研究を行い、各種機械、ロボット、情報機器、電気・電子機器等の製造やシステムの構築等について高度なハード・ソフト両技術を駆使できる能力を養います。

大学評価・学位授与機構への学位申請における専攻区分は「機械工学」または「電気電子工学」で、それぞれの区分に対応する専門科目を履修します。さらに、幅広い工学の知識を身につけるために専攻以外の専門科目も履修します。例えば、機械系専攻の学生は「実践電気電子工学」を、電気電子系専攻の学生は「材料科学」を受講し、専攻科実験では化学系の実験テーマも行います。

This department is designed to have the students acquire advanced technical knowledge about mechanical, electrical and control & information systems engineering. It also aims at educating development-oriented skillful engineers who can, by applying such knowledge, design engineering systems and have the abilities to improve current technologies. By educating and training them for their researches on the fields such as machinery / materials, electricity / energy / measurement & control / information, etc., we cultivate the ability to make full use of high technologies of both hardware & software about manufacturing various machines, robots, information appliances, or the construction of manufacturing systems.

The speciality division in the degree application is [Mechanical Engineering] or [Electric Electronic Engineering]. They study the specialized subjects corresponding to each division. In addition, to acquire a wide range of knowledge, they learn specialized subjects of each's field and the subjects of other fields as well. For example, the students of Mechanical Engineering major attend the class of "Practice of Electrical and Electronic Engineering", and the ones of Electric Electronic Engineering major attend "Materials Science", and the both majors do chemical experiments in Advanced Experiments classes, too.

**物質工学専攻** Department of Chemical and Biological Engineering

物質工学及び生物工学の高度な専門知識を習得し、これらと基礎工学に関する知識を融合して幅広い開発能力を持った実践的開発型技術者を育成します。化学や材料を中心にエネルギー、環境、生物に至るまで、教育研究の分野は多岐に渡ります。新素材や機能性材料、医薬品や農薬等の化学物質などを資源や環境にも配慮して開発できる能力を養います。

学位申請における専攻区分は「応用化学」です。化学系、材料系、生物系の科目を中心に履修します。専攻以外の科目では「データ解析」や「実践電気電子工学」等を受講します。専攻科実験にも機械系や電気系のテーマがあります。これによって、物質・生物分野だけでなく、機械や電気電子分野の課題にも幅広く対応できる能力を身につけます。

This department is concerned with educating a development-oriented practical engineer who has highly professional knowledge of material and biological knowledge as a basis, integrating it with the knowledge of information and common basic engineering. The field of the education and research is widely ranged from chemistry and materials mainly up to energy, environment and biology. We cultivate the ability that can develop the chemical substances such as new materials and functional materials, medical supplies or pesticides in consideration for resources and environment.

The specialty division in the degree application is [Applied Chemistry]. The students study subjects on chemistry, materials and biology mainly. They attend classes of "Data Analysis" and "Practice of Electrical and Electronic Engineering" besides his/her major. Advanced Experiments include themes of machinery and electricity. Therefore they acquire the ability to cope with problems not only in the field of material / biology but also machinery or electric electronic.

(出典：平成 25 年度学校総覧, p. 2)

## 準学士課程の具体的な到達目標

## 学習・教育目標と具体的な到達目標

**(A) 知識を統合し多面的に問題を解決する構想力を身につける。**

A-1 工学の基礎となる理論を理解し、実践を通して工学のセンスを身につける。(校訓「理魂工才」)

A-2 自ら学び自ら思考しながら、幅広い分野の知識を身につける。(校訓「自学自習」)

**(B) 地球的視野と技術者倫理を身につける。**

B-1 日本と世界との関わりあいについて関心を持ち、広い視野でものごとを考えることができる。

B-2 技術と人間社会や地球環境の関係について理解し、技術者が持つべき倫理観の必要性を認識する。

**(C) 数学、自然科学の基礎学力と実験・実習による実践力を身につける。**

C-1 工学の基礎となる、数学や自然科学の基礎知識を身につける。

C-2 基礎的な実験や実習を通してその技術を実際的に身につける。

**(D) 工学の基礎学力と情報技術を身につける。**

D-1 どの分野にも必要な共通の基盤技術である基礎工学を身につける。

D-2 コンピュータをはじめとするさまざまな情報機器を利用する技術を身につける。

**(E) 一つの得意専門分野をもち、生産技術に関する幅広い対応能力を身につける。**

E-1 得意とする専門分野の知識、技術を身につける。

E-2 得意とする専門分野と人間社会との関連について理解できる。

**(F) 論理的表現力と英語力を身につける。**

F-1 日本語の文章の内容を正確に理解し、自分の考えを的確に伝えることができる。

F-2 日常的に使用される英語文の内容を理解し、自分の考えを英語で伝えることができる。

**(G) 計画的、継続的、客観的な問題解決能力を身につける。**

G-1 解決すべき問題を、客観的にとらえて、計画的、継続的に学習することができる。

(出典：平成 25 年度シラバス， p. 1)



## 専攻科課程の具体的な到達目標

## ◎専攻科課程

## 養成する人材像

幅広い知識を統合した構想力や対応力に優れ、国際的に活躍できるコミュニケーション力を身につけた実践的開発型技術者。

## 学習・教育目標と具体的な到達目標

## (A) 知識を統合し多面的に問題を解決する構想力を身につける。

A-1 多様な解をもつ課題に対して、工学的知識・技術を統合し、創造性を発揮して適切な解決策を示すことができる。

A-2 地域社会が求める技術的課題に対して、科学・技術、情報などあらゆる知識を統合し、実現性のある解決策を示すことができる。

## (B) 地球的視野と技術者倫理を身につける。

B-1 広い教養と視野をもち、地球環境や国際間の異なる文化や歴史的背景を理解できる。

B-2 技術が人間社会や環境に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会や企業において果たすべき責任を自覚できる。

## (C) 数学、自然科学の基礎学力と実験・実習による実践力を身につける。

C-1 工学的な問題の解析や説明に必要な数学、物理学の知識および地球環境に関わる生物、地学、化学関係の知識を身につける。C-2 実験・実習を通じて現象を経験的に学び、実験結果に対する理論との比較や考察ができる。

C-2 実験・実習を計画的に遂行し、データを解析して、実験結果に対する理論との比較や考察あるいは説明ができる。

## (D) 工学の基礎学力と情報技術を身につける。

D-1 共通基盤技術である基礎工学の知識を身につける。

D-2 技術の深化や進展への対応に必要な専門基礎工学を身につける。

D-3 情報技術の仕組みを理解し、情報検索、データ解析、プログラミング等の能力を身につける。

## (E) 一つの得意専門分野をもち、生産技術に関する幅広い対応能力を身につける。

E-1 機械系、電気・電子系、応用化学系の専門分野から得意分野の学士の学位を取得する。

E-2 融合複合科目を修得し、機械および電気電子分野の対応能力や品質管理技術を身につける。

## (F) 論理的表現力と英語力を身につける。

F-1 論理的に記述、発表、討論する国語力を磨き、適切なレポートや論文が書ける。

F-2 学内外の研究発表会において、論理的で説得力のある発表や質疑応答ができる。

F-3 英語による表現力を磨き、国際的に通用するコミュニケーション基礎力を身につける。

## (G) 計画的、継続的、客観的な問題解決能力を身につける。

G-1 継続的に広く学び、自主的に問題解決を図ることができる。

G-2 実施計画を立て実行結果を逐次記録・評価して進捗の自己管理ができる。

(出典：平成 25 年度シラバス， p. 2)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、学校教育法に規定された目的に従って本校の目的、基本教育目標、養成しようとする人材像を明確に定めている。これに対応した形で準学士課程の各学科、専攻科課程の各専攻の目的、及び具体的な学習・教育目標を掲げて教育を行っており、高等専門学校一般に求められる目的に適合すると共に、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められている。

**観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。**

(観点に係る状況)

本校では、本校の目的、校訓を、学校総覧、学生便覧に明記し、すべての教職員（非常勤講師も含む）及び学生に配布している。また、本校ウェブページにも掲載している（資料 1-2-①-1～2、資料 1-1-①-2 参照）。例えば、学生便覧には、まず準学士課程の目的を第 3 章で明確にした後、第 8 章で専攻科課程について説明している。

基本教育目標は、シラバス、本校ウェブページ、学生募集要項に掲載し、各クラスルームにも掲示している（資料 1-2-①-3～4、資料 1-1-①-5 参照）。また、校訓は、体育館内にも大きく掲示して周知を図っている（資料 1-2-①-5）。

以上のように、教職員及び学生には、様々なかたちで目的の周知を図っている。教職員（非常勤講師も含む）及び学生にアンケートにより確認したところ、約 7 割の学生、9 割以上の教職員が、よく知っている、あるいはある程度知っているという結果が得られており、周知は図られている。

今後はさらに周知度が上がるように継続して周知、アンケート活動を行う（資料 1-2-①-6）。

## 校訓

## 1. 校訓 College Fundamental Principles

自学自習  
理魂工才

(初代校長 林 茂 助)  
(Written by Dr. M. Hayashi, the 1st president)

## 校章 College Emblem



図案 斎藤 求

山形県の「山」の文字を地として、「高専」の両側に羽の国の「羽」を配し、鶴岡の「鶴」の華麗にして雄々しい羽ばたきを象徴する。

## ロゴマーク Logomark



直線と曲線は、正確さと柔らかい自由な発想を象徴しており、鶴の飛翔をモチーフに、世界に羽ばたき、そして未来を創造できる人になって欲しいという願いが込められている。(創立50周年記念事業の一環として制定)

(出典：平成 25 年度学校総覧，p. 1)

## 校訓

## 校訓

自学自習  
理魂工才

自ら学び自ら思考しながら、目先のことだけにとらわれず、その基本となる原理を深く考え、実践を通して工学のセンスを身につける

(出典：本校ウェブページ)

## 基本教育目標の説明

## 学生の皆さんへ

高専は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」ことを目的に設置され、48年の歴史があり、当初より大学工学部に負けない教育をしてきました。平成15年度から2年制の専攻科課程ができました。平成16年から独立行政法人国立高専機構法により、高専は「職業に必要な実践的かつ専門的な知識および技術を有する創造的な人材を育成する」、「高等教育」の機関とされ、専攻科まで含め、大学と同じ高等教育機関になっています。平成21年の10月には、例えば仙台電波高専と宮城高専が統合し「仙台高専」という高度化高専が4高専も発足するなど新段階に入りました。本校でも平成18年には、本科の4.5年生と専攻科課程を連続した4年間の「生産システム工学プログラム」が、JABEE（日本技術者教育認定機構）の審査に合格しました。そして、平成18年度からは4.5年の単位の一部に自学自習の要素も重視する学修単位（いわゆる大学単位）が導入されました。平成19年度には高専として「適合している」との認証評価も受けています。しかし、高専の準学士課程（本科）が「5年間の一貫教育」によって、社会に卒業生を送り出す目的を持つことには変わりありません。

高専は、以上のように、日本の教育制度のなかではユニークで、それに加え歴史的な変遷もあり、授業のやりかたが分かりにくいかもしれません。それで本校では、自分の勉強する科目がどのような内容で、教育全体のなかでどのような意味があるのかを理解してもらうために、毎年シラバス（授業要目、授業計画）を作成しています。皆さんが、自学自習したりする際にも、このシラバスを十分に活用してください。以下に、このシラバスを読む上での留意点を示します。

## 【シラバス利用の手引き】

**基本教育目標：**実践的技術者として職業に必要な能力は、技術者としての行動の「倫理的判断能力」、いかなる技術的難題にも挑戦し得る「行動能力」、専門知識の「獲得能力」、そして技術者として大成するには「技術者である前に人間であれ」というように人間形成が重要です。これらのことを踏襲して本校の基本教育目標としています。

**学習教育目標：**皆さんが勉強する教科が鶴岡高専学習・教育目標のどれを達成するものであるかはシラバスの紙面にアルファベットで示してあります。

**授業の概要：**その授業で学ぶ重要なポイントが示されています。また、その授業に関連の深い科目が記載されていますので、予習・復習のさい参考にして下さい。授業の開始に当たって、担当の先生が分かりやすく説明をしますので、それらを大いに参考にして学習して下さい。

**達成目標：**大変重要です。皆さんがこの授業で身につけてほしい学習内容や能力水準が示されています。常にこの達成目標を意識して学習して下さい。

**評価方法と基準：**各授業科目の成績の評価基準と試験問題のレベルが具体的に示されています。皆さんはこの基準にしたがって客観的に評価されます。低学年と高学年では合格点が異なりますので、詳しくは「単位の修得と進級及び卒業の認定について」をよく見て下さい。

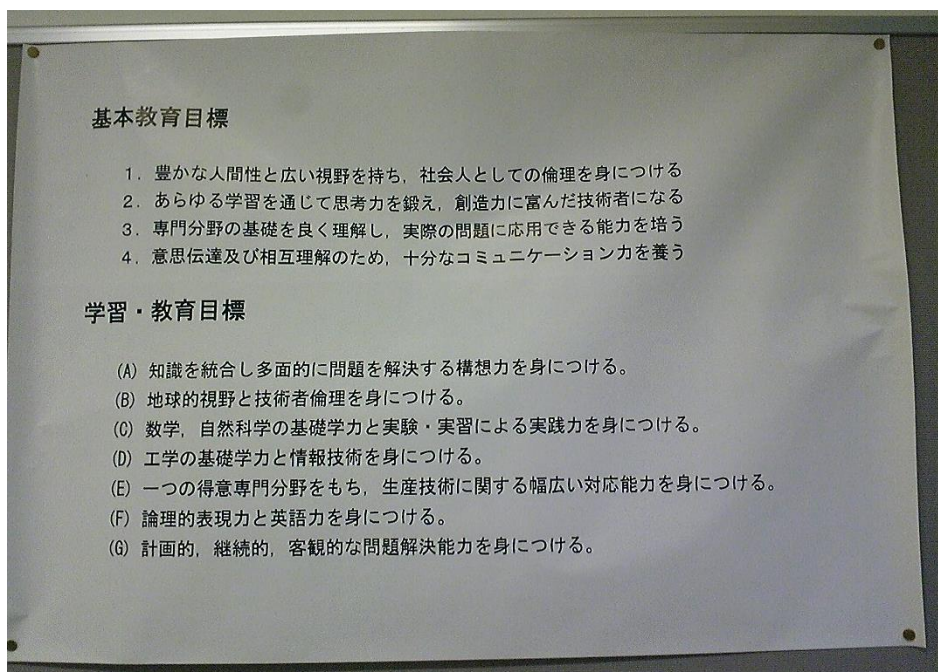
**オフィスアワー(Office Hours)：**この意味は、「その時間帯には、先生は必ず部屋に待機しており、学生諸君からの質問や相談に対してやさしく丁寧に答えます。」ということです。オフィスアワーは授業を担当するすべての先生が設けていますので、特に低学年の学生は、この機会に、先生を気楽に訪問し質問をする習慣をつけて下さい。そして、わからない状態をそのままにしない習慣をつけて下さい。

平成25年4月  
教務委員会

(出典：平成25年度シラバス、見開き頁)

資料 1-2-①-4

基本教育目標



(出典：クラスルーム掲示)

資料 1-2-①-5

校訓

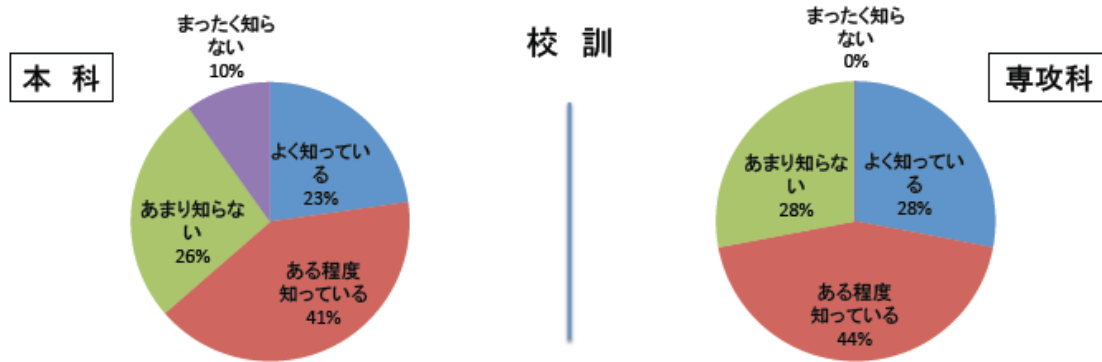


(出典：体育館掲示)

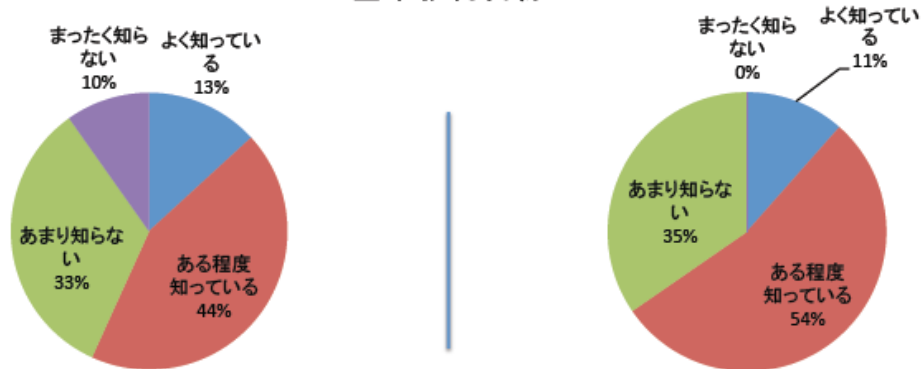
資料 1-2-①-6

校訓，教育目標の周知確認アンケート結果

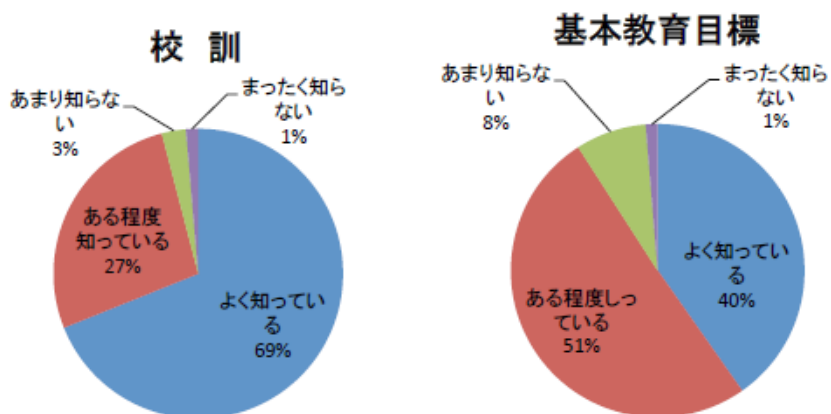
学生



**基本教育目標**



教職員



(出典：FD 委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的，校訓を学生便覧，学校総覧，シラバス等に明記し，教職員（非常勤講師も含む）及び学生に配布している。また，本校ウェブページ等に明記し，体育館内及びクラスルームにも大きく掲示して，教職員及び学生に周知を図っており，その周知状況はアンケートによって確認されている。以上より，本校の目的は学校の構成員（教職員及び学生）に周知されている。

### 観点 1-2-②： 目的が，社会に広く公表されているか

(観点に係る状況)

本校の目的は，観点 1-2-①で述べたように，学校の構成員だけでなく，将来の学生や保護者及び本校を卒業・修了した社会人，一般市民へも広く公表している。

中学生や保護者に対しては，入試説明会（4回），学校説明会（5回），中学校訪問（119校），中学生一日体験入学（保護者406名，生徒151名）（資料 1-2-②-1～4）で説明し，卒業生や一般市民に対しては学校総覧，本校ウェブページにて公表し，周知を図っている（資料 1-1-①-4，6 参照）。

また，卒業生の就職先となる各企業に対しても，企業向けパンフレットを作成し，本校の目的について説明している（資料 1-2-②-5）。パンフレットは，求人で来校された企業（過去3年間平均157社），本学の教員が訪問する企業（過去3年間で58社），求人票を送付して頂いた企業（過去5年間で1400社程度）等へ積極的に配布している。

以上の活動を通して，学校総覧は毎年500部程度，学生募集要項は毎年700部程度を配布している（資料 1-2-②-6）。

資料 1-2-②-1

平成 25 年度入試説明会一覧（対象：中学校教員）

## 平成 25 年度 入 試 説 明 会

対象：中学校教員

日 時	開催地区	会 場	本校出席者	備 考
9月 27日(木)	新庄市	新庄市生涯学習センター 2F 「わくわく新庄」会議室 新庄市下金沢町15-11 TEL0233-23-0197	教務主事 課長補佐	
9月 28日(金)	山形市	山形むらきさわビル1F ゆうキャンパス・ステーション 山形市香澄町1-3-15 TEL023-628-4842	教務主事 教務係長	
10月 4日(木)	米沢市	置賜総合文化センター 2F 201研修室 米沢市金池3-1-14 TEL0238-21-6111	教務主事 課長補佐	
10月 11日(木)	鶴岡市	鶴岡工業高等専門学校 大会議室 鶴岡市井岡字沢田104 TEL0235-25-9024	校長，教務主事 部長，学生課長 補佐，教務係長	

(出典：学生課資料)

平成 24 年度学校説明会一覧（対象：中学生及び保護者）

## 平成 24 年度 学 校 説 明 会

対象：中学生及び保護者

日 時	開催地区	会 場	本校出席者	備 考
10月 14日(日)	受付 13:15 開会 13:30 閉会 15:00	山形市 山形むらきさわビル1F ゆうキャンパス・ステーション 山形市香澄町1-3-15 TEL023-628-4842	学生主事 清野係員	
10月 21日(日)	受付 9:45 開会 10:00 閉会 11:30	新庄市 新庄市生涯学習センター 2F 「わくわく新庄」相談室 新庄市下金沢町15-11 TEL0233-23-0197	窪田教授 課長補佐	運営会議委員
10月 21日(日)	受付 13:15 開会 13:30 閉会 15:00	米沢市 置賜総合文化センター 2F 201研修室 米沢市金池3-1-14 TEL0238-21-6111	寮務主事 教務係長	
10月 28日(日)	受付 9:45 開会 10:00 閉会 11:30	鶴岡市 鶴岡工業高等専門学校 合同講義室 鶴岡市井岡字沢田104 TEL0235-25-9024	竹村教授 学生課長 課長補佐	運営会議委員
11月 4日(日)	受付 9:45 開会 10:00 閉会 11:30	酒田市 酒田市総合文化センター 3F 310中会議室 酒田市中央西町2-59 TEL0234-24-2991	飯島教授 学生課長 課長補佐	運営会議委員
12月 1日(土)	受付 9:45 開会 10:00 閉会 11:30	鶴岡市 鶴岡工業高等専門学校 合同講義室 鶴岡市井岡字沢田104 TEL0235-25-9024	教務主事 成田係員 課長補佐	

(出典：学生課資料)



平成 24 年度 中学校訪問実施一覧

H23.9.16

H24年度 中学校訪問実施計画（県内108校、隣県11校）

より多くの中学生に受験して貰うため、教員が各中学校を訪問し本校の広報を行う。

※ 訪問担当者が、中学校にアポイントメントをとって各自の日程を組み、教務の鈴木課長補佐に連絡してください。

※ 訪問時期は11月末までとします。

※ 庄内地区、最上地区西部は日帰り、他地区は1泊2日を原則とします。

※ 教務主事補は下記の他、各地の学習・進学塾を訪問します。

㊦ 23校

鶴岡・田川地区 4校 下記の他10校は高校説明会

訪問担当者	訪問先中学校										
粟野／平尾	①	鶴岡三	②	鶴岡一	③	鶴岡二	④	豊浦			

酒田・飽海地区 8校

訪問担当者	訪問先中学校										
窪田／長谷川	①	鳥海八幡	②	酒田一	③	遊佐	④	酒田二			
上松／徳永	①	酒田三	②	酒田四	③	飛鳥	④	松山			

㊦ 90校

東南村山地区【山形市, 上山市, 天童市, 山辺町, 中山町】27校

訪問担当者	訪問先中学校											
江口	①	山形三	②	山形六	③	山形八	④	山形四	⑤	山形七	⑥	高橋
主濱	①	山辺	②	中山	③	作谷沢	④	金井	⑤	山形二		
田中	①	山形十	②	山大附属	③	山形九	④	山形一	⑤	山形五		
飯島	①	蔵王一	②	蔵王二	③	宮川	④	上山南	⑤	上山北	⑥	日大山形
渡部	①	天童一	②	天童三	③	天童四	④	天童二	⑤	山寺		

西村山地区【寒河江市, 河北町, 西川町, 朝日町, 大江町】

北村山地区【村山市, 東根市, 尾花沢市, 大石田町】19校

訪問担当者	訪問先中学校										
佐藤義	①	東根一	②	楯岡	③	東根三	④	東根二			
佐々木	①	陵南	②	陵西	③	陵東	④	河北			
神田	①	大江	②	西川	③	朝日					
田阪	①	葉山	②	大石田	③	神町	④	大富			
加藤健	①	尾花沢	②	福原	③	玉野	④	常盤			

最上地区【新庄市, 金山町, 最上町, 舟形町, 真室川町, 大蔵村, 鮭川村, 戸沢村】14校

訪問担当者	訪問先中学校										
茨木	①	舟形	②	日新	③	新庄	④	最上	⑤	明倫	
本間	①	真室川	②	萩野	③	金山	④	大蔵	⑤	及位	
南	①	八向	②	鮭川	③	戸沢	④	角川			

東南置賜地区【米沢市, 南陽市, 高畠町, 川西町, 上山市】

西置賜地区【長井市, 小国町, 白鷹町, 飯豊町】25校

訪問担当者	訪問先中学校										
柳本	①	米沢二	②	米沢五	③	米沢四	④	南原	⑤	米沢七	
本橋	①	米沢一	②	米沢六	③	米沢三	④	川西			
比留間	①	赤湯	②	宮内	③	沖郷	④	飯豊			
阿部達	①	高畠一	②	高畠四	③	高畠二	④	高畠三			
保科	①	小国	②	北部	③	中津川	④	叶水			
西山	①	長井南	②	長井北	③	白鷹東	④	白鷹西			

新潟下越地区 11校

訪問担当者	訪問先中学校											
澤	①	村上山北	②	村上朝日	③	村上東	④	村上第一	⑤	村上神納	⑥	村上岩船
宝賀	①	村上荒川	②	村上平林	③	胎内乙	④	胎内中条	⑤	胎内築地		

参考 高校説明会実施校 校

訪問担当者	訪問先中学校											
柳本		楯引		温海		藤島		鶴岡五		酒田六		三川
増山		羽黒		余目		鶴岡四						
佐藤浩		立川										

☆学習塾訪問

柳本先生: 米沢地区, 上松先生: 鶴岡, 酒田地区, 神田先生: 村山, 東根市近辺, 南先生: 新庄市近辺, 田中: 山形市近辺

(出典: 学生課資料)

中学生一日体験入学での学校の目的, 基本教育目標の説明

中学生一日体験入学について

みなさんに『鶴岡高专』をよく理解していただき、卒業後の進路を決めるときに役立ててもらいたいと考え、本校の施設・設備と教育の内容などをわかりやすく紹介するとともに、これらの設備を利用して実際に実験をしたり、また授業を受けたり、高专での一日を体験していただくために企画しました。

## 1. 日 程

9:30~10:00 10:00~10:15	受 付 (第1体育館) 開 校 式 ( " ) (1) 開校のことば (2) 校長あいさつ (3) 日程説明		
	【中 学 生】		【保護者及び教員】
10:15~10:30 10:30~12:00 (10:30~11:30)	会場移動 体験学習<午前>と 学内見学ツアー実施	10:30~11:15 11:15~12:00	施設見学 学校概要説明
11:30~12:50 12:50	昼 食 (学寮食堂) 体験学習<午後>並びに 学内見学ツアー希望者集合 (第1体育館)	12:00~12:40 12:40~12:50 12:50~	休 憩 個別相談 移 動 昼 食 (学寮食堂)
13:00~14:20	体験学習<午後>と 学内見学ツアー実施 学内自由見学		学内自由見学
14:30~15:00 15:00~15:15	クラブ紹介 修 了 式 (第1体育館) (1) 校長あいさつ (2) 修了のことば		

(出典：学生課資料)

## 企業向パンフレット



●緑豊かな田園に広がるキャンパス

**JABEE認定校**

日本技術者教育認定機構（JABEE：Japan Accreditation Board for Engineering Education / 設立 1999年11月19日）は、技術系学会と密接に連携しながら技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体です。  
Copyright©Japan Accreditation Board for Engineering Education 2007-2012

**■教育目標**

鶴岡高専は、昭和38年に創設された実践的技術者の育成を目標とする高等工業教育機関です。実践的技術者に必要な能力とは、基本的に次の4点を上げることができます。

- ① 豊かな人間性と広い視野を持ち、社会人としての倫理を身につける。
- ② あらゆる学習を通じて思考力を鍛え、創造性に富んだ技術者になる。
- ③ 専門分野の基礎を良く理解し、実際の問題に応用できる能力を培う。
- ④ 意思伝達及び相互理解のため、十分なコミュニケーション力を養う。

実践的技術者の職業に必要な能力は、指導、応用、判断の三位一体の上に成立するものであり、本校の教育目的はこの三者を兼ね備える実践的技術者の育成であります。

21世紀の新しい時代を見すえ、創造性の育成、国際化への対応、マルチメディアを活用する教育体制の実現、柔軟に対応できる幅広い知識の教授を目指して、本校は教育と研究に邁進していますので、本校卒業生は工業社会からの要請に十分応えうる能力をもつと確信しております。

**■学科の構成**

本校には、総合科学科と機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科、物質工学科の4つの専門学科とさらに2年間の専攻科があり、各専門学科は定員がそれぞれ1学年40名、専攻科では16名で総定員は832名です。これらの学生の教育・研究指導に120名を超える教職員が当たっています。

**■カリキュラム**

高専は後期中等教育と短期高等教育を統合した5年一貫制（専攻科を含めると7年間）の教育機関であるため、大学受験競争の圧力を受けずに、理想的な体系の専門教育を施しています。

本校のカリキュラムは、低学年では一般科目が多くを占めていますが専門科目も含まれ、一方学年が上がるにつれて徐々に専門科目の比重が増大しますが最終学年においても一般科目を残し、基礎学力の低下を防ぐ、いわゆる「くさび形」のカリキュラム構成をとっています。一般科目と専門科目の履修単位数はほぼ同数でバランスが保たれています。また、高学年の4,5年と専攻科1,2年の計4年間のカリキュラムは、国際的な技術者教育プログラムの基準に適合したJABEE認定プログラムになっています。

高専で履修する専門科目の授業時間数は3,600時間以上で、高校と大学を合わせた7年間で履修する専門科目授業時間数（3,000～3,200時間）を上まわります。



●高専ロボコン全国大会 特別賞受賞

# 自学自習 理魂工才

（出典：実践的工業技術者の育成，H25. 1）

## 各種活動での学校総覧，パンフレット等，配布部数

対象	活動	配布物	平成22年度	平成23年度	平成24年度
中学生，保護者	中学校訪問	学校総覧，カレッジ プロフィール	126	123	119
企業，卒業生	教員訪問企業	学校総覧，企業向け パンフレット	63	震災のため中止	59
企業，卒業生	来校企業	学校総覧，企業向け パンフレット	168	161	153
一般市民	展示会等	学校総覧	鶴岡大産業まつり，酒田産業フェア等展示会：各会100部以上		

## 各中学校への学校総覧・学生募集要項送付部数一覧

## 学生募集要項等送付先内訳

・ 文部科学省高等教育局専門教育課長	
・ 国立高等専門学校機構本部事務局学務課長	
・ 〃 国際交流室	
・ 山形県教育委員会教育長	
・ 山形県内各市町村教育委員会教育長（35市町村）	
・ 山形県内各教育事務所長（4）	
学生募集要項各1部	43部
・ 山形県内中学校（108）	
学生募集要項	502部
学生募集・説明会ポスター	108
学生募集・説明会チラシ	502
パンフ	502
奨学金チラシ	502
・ 県外中学校（90）	
青森4（弘前四，浪打，田名部，弘前南），秋田33（別紙のとおり），福島5（福大附属，信陵，西信，玉川，会北），宮城3（松陵，仙台一，しらかし台），新潟36（別紙のとおり），茨城1（江戸崎），群馬1（草津），神奈川2（寺尾，旭陵），栃木1（氏家），埼玉1（両新田），東京2（西早稲田，世田谷），福岡1（天拝）	
* 秋田新潟以外の地域については，過去に志願者のあった学校に送付している。	
学生募集要項	180部
学生募集・説明会ポスター	90
学生募集・説明会チラシ	180
パンフ	180
合 計	
学生募集要項	725部
学生募集・説明会ポスター	198部
学生募集・説明会チラシ	682部
パンフ	682部
奨学金チラシ	502部

資料1-2-②-6 続き

各中学校への学校総覧・学生募集要項送付部数一覧

チラシ: 学生募集・学校説明会

学生募集・学校説明会ポスターも各1部添付

市町村	中学校	人数	要項	パン	チラシ	奨学	市町村	中学校	人数	要項	パン	チラシ	奨学	市町村	中学校	人数	要項	パン	チラシ	奨学
山形市	第一	167	5	5	5	5	西	北	162	3	3	3	3	最	上	42	2	2	2	2
	第二	200	3	3	3	3	西	北	53	2	2	2	2	上	小	10	2	2	2	2
	第三	211	3	3	3	3	山	西	55	4	4	4	4	郡	西	65	3	3	3	3
	第四	259	5	5	5	5	山	朝	70	3	3	3	3	郡	白	86	3	3	3	3
	第五	205	5	5	5	5	郡	日	155	5	5	5	5	郡	置	80	3	3	3	3
	第六	264	5	5	5	5	村	大	90	5	5	5	5	郡	賜	3	2	2	2	2
	第七	136	3	3	3	3	山	江	172	3	3	3	3	郡	飯	245	25	25	25	25
	第八	47	3	3	3	3	市	岡	57	3	3	3	3	郡	豊	186	20	20	20	20
	第九	110	3	3	3	3	東	藤	42	4	4	4	4	郡	中	241	25	25	25	25
	第十	230	3	3	3	3	第	山	30	3	3	3	3	郡	津	130	20	20	20	20
	第十一	110	3	3	3	3	一	大	136	2	2	2	2	郡	川	120	10	10	10	10
	第十二	86	2	2	2	2	二	福	39	3	3	3	3	郡	豊	46	5	5	5	5
	第十三	10	2	2	2	2	三	原	76	3	3	3	3	郡	浦	116	8	8	8	8
	第十四	154	3	3	3	3	第	尾	19	2	2	2	2	郡	島	83	10	10	10	10
	第十五	159	2	2	2	2	三	宮	20	2	2	2	2	郡	黒	75	10	10	10	10
上山市	南	171	2	2	2	尾	沢	67	2	2	2	2	郡	引	50	5	5	5	5	
天童市	第一	198	3	3	3	花	野	82	5	5	5	5	郡	海	74	10	10	10	10	
東村山郡	山	133	3	3	3	統	鶴	52	3	3	3	3	郡	温	59	3	3	3	3	
寒河江市	東	145	5	5	5	子	統	2	2	2	2	2	郡	立	189	10	10	10	10	
小計	3978	94	94	94	94	北	村	82	5	5	5	5	郡	川	64	10	10	10	10	
小計	1889	85	85	85	85	山	田	85	5	5	5	5	郡	三	181	10	10	10	10	
小計	1990	67	67	67	67	新	庄	134	5	5	5	5	郡	酒	85	10	10	10	10	
小計	3062	256	256	256	256	日	新	50	3	3	3	3	郡	第	193	15	15	15	15	
合計	10919	502	502	502	502	菟	野	14	3	3	3	3	郡	二	193	10	10	10	10	
						八	向	60	2	2	2	2	郡	統	162	10	10	10	10	
						山	山	82	3	3	3	3	郡	合	102	5	5	5	5	
						最	上	49	3	3	3	3	郡	統	46	4	4	4	4	
						上	位	16	2	2	2	2	郡	合	57	4	4	4	4	
						大	蔵	22	2	2	2	2	郡	合	141	4	4	4	4	
						沼	折	統	2	2	2	2	郡	合						

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校は、将来の学生及びその保護者や卒業生（企業含む）、一般市民に対して、学校総覧、本校ウェブページ、企業向けパンフレット等で周知しており、本校の目的等は幅広く社会に公表されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

教育目的を明記した学生便覧，シラバスを教職員及び学生に配布しており，また本校ウェブページにも掲載して周知を図っている。また，校外においては，入試説明会，学校説明会，中学校訪問，中学生一日体験入学，企業訪問等，学校総覧等を配布することによって，また，本校ウェブページによっても学校の目的を広く社会に公表している。

### (改善を要する点)

特になし

## (3) 基準 1 の自己評価の概要

本校は創立以来，「自学自習」，「理魂工才」の校訓を掲げ，これに基づいて基本教育目標及び学習・教育目標を明確に定めている。これに対応した形で準学士課程の各学科，専攻科課程の各専攻の目的，及び具体的な学習・教育目標を掲げて教育を行っており，高等専門学校一般に求められる目的に適合すると共に，学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められている。

本校の目的，校訓を学生便覧，学校総覧，シラバス，本校ウェブページ等に明記して周知を図り，教職員（非常勤講師も含む）及び学生に配布している。また，校訓は体育館内にも大きく掲示して，教職員及び学生に周知を図っており，その周知状況はアンケートによって確認されている。以上より，本校の目的は学校の構成員（教職員及び学生）に周知されている。

本校は，将来の学生及びその保護者や卒業生（企業含む），一般市民に対して，学校総覧，本校ウェブページ，企業向けパンフレット等で周知しており，本校の目的等は幅広く社会に公表されている。